

本願寺新報

hongwanji journal

5月20日(木曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所 本願寺新報社

京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派(西本願寺) 本願寺出版社内
〒600-8501
電話 075(371)4171(代) / FAX 075(341)7753

号外

きょう午後、ご発布

きょう五月二十日午後三時十五分から総御堂において「本願寺念仏奉仕団五十年に際しての消息」発布式が行われ、ご門主が親読された。
念仏奉仕団は、昭和二十三年の蓮如上人四百五十回遠忌法要で全国各地の僧侶や門徒が自主的に清掃奉仕したことがきっかけとなり、二十八年に「愛山護法」の念をより一層深めてもらうために制度として発足、全国の寺院に奨励するようになった。
三十六年頃には一泊二日の日程が定着、五十年代には実施回数も年間八十数回にまで増加した。参加者は「心のふるさと・ご本山を美しくすることで、自らの心もすがすがしくなる」と喜び、発足以来延べ百万人に達している。
きょうのご消息ご発布を機に宗門では念仏奉仕団の一層の充実をめざす。

本願寺念仏奉仕団五十年に際しての消息

本願寺念仏奉仕団は、昭和二十三年の蓮如上人四百五十回遠忌法要に参拝された方々が、戦争で荒廃していた本願寺境内地を見て心を痛められ、自主的に来山されたことに始まります。昭和二十八年にはご奉仕いただく仕組みが調えられ、この度、五十年を迎えました。

昭和三十六年の親鸞聖人七百回大遠忌法要の頃から、一泊二日の日程が定着し、さらに、交通網の発達と宿泊施設の充実により、全国各地から奉仕団の方々をお迎えすることができるようになりました。今では、年間二万人前後の方々にご奉仕をいただいています。

さて、宗祖親鸞聖人のみ教えの要は、阿弥陀如来よりたまわる信心によって往生成仏させていただくことです。外面よりも内面が重要であります。親鸞聖人を宗祖と仰ぐ私たちにとっては、御真影をご安置した御影堂、如来様をご安置した阿弥陀堂を始めとする本願寺全体が仏祖のお徳を讃え、仏縁にあわせていただく大切な場であります。今日、両御堂や境内が美しく清掃されていることは、念仏奉仕団の方々のご奉仕のためであり、あつい思いを抱いて参拝される方々にとっては申すまでもなく、京都観光の一つとして参拝される方々にも、大切なお念仏のご縁を結んでいただくこととなります。

また、阿弥陀如来そして親鸞聖人への崇敬のところが、御堂内外への清掃奉仕となって表れることはまことに尊いことであり、宗教本来の姿がわかりにくくなってきた今日の社会で、あるべき宗教活動を示すものとして、大変有意義なものであります。

念仏奉仕団の方々のご奉仕と晨朝法要での正信偈のご唱和は、本願寺の宝であります。
『蓮如上人御一代記聞書』には「一日のたしなみには朝つとめにかかさじとたしなむべし。一月のたしなみにはちかきところ御開山様の御座候ふところへまあるべしとたしなめ、一年のたしなみには御本寺へまあるべしとたしなむべし」という言葉が伝えられています。毎日のお内仏での勤行とお給仕、月に一度の近くのお寺への参拝と奉仕、そして、年に一度の本願寺奉仕団と一つにつながることを願ってやみません。そして、お念仏に支えられた奉仕のところが家庭から地域社会、さらには世の中へ広がってゆくことを期待いたします。

五十年という節目にあたり、これまでご奉仕くださった方々にあらためて感謝いたしますとともに、今後ともご奉仕が続くことを念願いたします。

平成十六年 五月二十日
二〇〇四年

龍谷門主 釋 即如